

1. 幼稚園の運営

- (1) 所在地：水戸市緑町三丁目九番 36 号
- (2) 定員：140 名 利用定員(水戸市に報告定員)：105 名
- (3) 職員数：28 名 (内 3 名育休・1 名労災休・1 名 7 月退職)
常 勤(13 名)：理事長 1 名、園長 1 名、主任教諭 0 名、教諭 10 名 (この内産休育休 2 名・
労災退職 1 名・転居退職 1 名) 管理栄養士 1 名
非常勤(15 名)：教諭 8 名 (内産休育休 1 名)、 調理員 4 名、園バス運転手 3 名
- (4) 嘱託医：石田哲郎 (外科・胃腸内科)、横須賀均 (歯科)
- (5) 理事：理事長＝松本智昌 理事＝松本晴子 (業務執行理事)、小山哲司、鬼沢力男、
星野光利、星野吟子
- (6) 監事：萩野谷興、安昌美
- (7) 評議員：松本智昌、鈴木ゆかり、小池貞、横須賀均、鬼沢力男、真中恵美
松本晴子、星野光利、金丸隆太、高野秀樹、藤山修、岡崎沙希

2. 教育理念 神様に愛されている幼子、そして育てている保護者が喜びに満たされる生活を
送れるように、今を大切に生きること。

年間テーマ

『 共に喜んで ～すべての歩みの中～ 』

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、
すべての部分が共に喜ぶのです コリントの信徒への手紙 I 12 章 26 節

教育課程

- 一学期**： 出会いが保障され、出会いが意識化されることによって、喜んで自分の存在を受け
容れてくれる存在がいることを、知っていく。
- 二学期**： 自然の中に感動を得、物事への興味を育み、他者を含め共に生きる存在が
いることを前向きに喜んでいく。
- 三学期**： 自分を前向きに捉え、自分と違う存在が居ていいという肯定感を持ちつつ、
仲間と共に何かを創りあげていく喜びを知る。

3. 保育時間

通常保育： 8 時 30 分～14 時

一時預かり保育： 8 時から 8 時 30 分。保育終了後～17 時 30 分 (長期休業 8 時～17 時 30 分)

4. 職員と園児数

- (1) 幼稚園教諭採用 1 名 短大卒 (常勤) 退職 7 月末 1 名 11 月 1 名 年度末 1 名
- (2) 園児数月ごと変化 92 名－93－97－96－94－96－97－96－97－97－96－96

5. 主な行事 / 金曜日 礼拝 / 月ごとに 誕生会 / 各避難訓練

| 一学期 | 二学期 | 三学期 |
|------------------------|---------------|------------|
| 入園式 | 新入児二者面談 遠足 | 学校見学 |
| 親子遠足 | 運動会 | 積木ワークショップ |
| 植物栽培/ タッキング | さつまいも堀遠足 | もてなしタッキング |
| 木工 | クッキング | 観劇会(劇団風の子) |
| 保育参観 | 消防署訪問 | ひなまつり会 |
| プール | こどもまつり | 親子給食会食会 |
| 日帰りキャンプ | クリスマス会 | 歩く会 |
| 個人面談 | 親子陶芸(子育て支援事業) | 卒園・終了式 |

6. その他の活動

水戸市合同説明会 見川総合体育館
入園説明会 限定動画配信
にじいろチャイルドの会 園児観察1回・保育者講座3回
保護者対象3回 (茨城大学 金丸隆太先生)
おはなしはらっぱ 年長児対象 実施回数2回 (茨城キリスト教大学 原口なおみ先生)
未就園児親子くらぶ (つくしっこくらぶ) 実施回数10回
子育て相談 8月 3月以外毎月 実施回数8回
園庭開放 (木もれびの庭) 9回
9月の登園自粛期間中は、YouTube 配信をおこなった。
ホームページ月ごとに更新/グループや年齢の担任よりメッセージと写真を掲載
教育実習生受け入れ 1人 (常磐短期大学)

7. 2021年度の主な環境に関わる支出経費

園庭剪定費用・桜の手入れ 砂場用砂 個人用机 逆上がり補助板 園庭用倉庫2棟

8. 今年度の保育評価

満3歳児から5歳児までの混合クラスが4クラス。2021年度はコロナの世界2年目ということで、少しチャレンジを増やした。2020年度行わなかった入園式を2021年度の入園式の前にプログラムし、喜ばれた。親子遠足は食事は取らず、レクなどの交流とおやつお土産で行うことが出来た。日帰りキャンプは園でのカレー調理体験(根菜切)を中止した中での、現地一発体験であったが、落ち着いて取り組む力があり、現地スタッフに助けられた。帰園後保護者と園児の目の前で、園バスが向かい側のお宅の塀にぶつかる事故が起こったことは、反省すべきことであった。事故は普段と異なる行動を急遽とらざるを得ないことで、各々が少しずつ慌てることの結果として現われることを学んだ体験であった。誰も怪我人がいなかったことは幸いであった。9月初めはまた感染拡大で登園自粛をすすめたが、動画作成に手慣れたスタッフがいたことで、それぞれの活躍の場があったと感じた。運動会は5歳児のリレーが白熱し保護者の感動を呼んだ。保護者1名参加ということが、のちのち保護者の残念さにつながったようだ。それぞれの年齢活動やグループ活動も子どもの目線で対話的な学びという研修の学びから、少しずつ変化も見られた。

保育者は労災での休業者がいたり、ご家族の転勤で途中退職の方がいたり、大変だったといえる。また、時間外労働の時間が多く仕事が終わらないという実際。仕事の方法の見直しの模索などがあった。

主任退職後事務は園長が引継いだ、精神面でのフォローや実務の確認など主任を置きたい願いはあったと聞く。その一方、仕事は自分事なのだ、という意識の変化に気づいた方々もおられた。

食物アレルギーでの対応は、引き続き個別対応を徹底した。

園児募集はつくしっこくらぶもそうであるが、他の園のプレに通っていてちょっと無理そうという個別支援を求める保護者のお子さんが多く集まった。

満3歳児は8名。3歳児は13名。4歳児10名申し込みがあった。2022年度在籍数は減少となる。